

様式3 日向市第三セクター等経営状況及び点検評価結果報告書

作成基準日	令和2年4月1日	作成担当部署	観光交流課	電話番号	66-1026	代表者	日向市長 十屋 幸平
名称等	名称	株式会社 日向サンパーク温泉		所在地	日向市大字幸脇303番地5		
	設立年月日	平成14年1月8日		電話番号	TEL : 0982-56-3800 FAX : 0982-56-3805	ホームページ アドレス	http://ww2.wainet.ne.jp/~sunpark/
資本金	50,000千円	設置目的	日向サンパーク温泉等の経営・管理・運営	事業(業務)内容	温泉浴場施設・道の駅・オートキャンプ場・体育施設の経営・管理・運営		
役員数及び給与の状況	役員		役員報酬総額	有給職員(臨時・パート職員は除く)		有給職員の	職員給与総額 (千円)R元年度
	総数	うち市出向者・退職者数	(千円)R元年度	総数	うち市出向者・退職者数	平均年齢	
	7	2	0	12	2	49	22,784
第三セクターへの関与の状況	(1)公的支援(財政的関与)						
	項目	金額(千円)			備考(目的・内容・算出根拠等)		
		H29	H30	R元			
	① 運営補助金	17,352	23,729	3,394	道の駅「日向」管理業務委託に係る補助金(温泉館のH30までの完全換水業務委託はR元から指定管理料へ)		
	② 指定管理料	11,408	11,408	34,599	日向サンパーク温泉、オートキャンプ場及び体育施設に係る管理料		
	③ 貸付金	25,000	25,000	25,000	株式会社 日向サンパーク温泉運転資金貸付要綱に基づく短期貸付金		
	④ その他()						
	合計	53,760	60,137	62,993			
	・短期貸付金残高						
	・長期貸付金残高						
合計							
(2)人的支援(人的関与)							
(3)その他の取組 (その他の課題)	・指導・監督の強化	第三セクターに関する指針策定					
	・情報の公開	日向サンパーク温泉改革プランに基づく点検・評価結果の公表					
法人自らによる経営健全化のための具体的な取組	経営課題	経営健全化策(具体的取組)		取組結果		点検・評価	
	経営形態見直し策	施設別経営状況の明確化による経営改善対策。施設別に決算書を作成、施設別の収支を明確にする。特に、温泉館における事業毎(入浴、レストラン、売店)毎の経営区分や、本部の営業・管理経費の配分を明確にする。		平成21年度から部門ごとの決算書を作成するとともに、平成23年度からは月毎の決算書も部門ごとに作成しています。これまで指摘のあったレストランの原価率適減に努め、率にして2.5%、金額にして100万円以上の削減を行いました。 ○改善策取組事例 ・年間イベントの充実・強化 ・レストランメニューの改善による営業強化 ・コインロッカーの有料化(1回:10円)		□充分であった ■ある程度あった □不十分であった 温泉館については、ポイラー故障による燃料費高騰などによる一般管理費の増加が経営を圧迫していますが、過去からの課題を分析して委託料の見直しを図ったことは評価できます。部門ごとの詳細な業績を把握しておられるので、この点が迅速な課題の把握や改善への取組みにつながっているのではないかと思います。	
	経営体制強化	会社の経営状況を社内で共有することにより、経営参画意識の向上に努める。		管理職及び主任職を中心に月例会議を通して、経営状況等の情報を共有化し、経営意識の醸成と業務改善に努めました。月例社内会議で報告し、各部門の問題点の確認や改善について継続的に取り組みました。		□充分であった ■ある程度あった □不十分であった 危機感を社内で共有することで、それぞれの部門が問題意識を持つことに努めたことは評価できます。物産館売上(商品)が大きく伸びていますので、これは職員の皆さんの経営参画意識の向上等、日々の取組みの成果であると思います。	
	収入増加確保対策	詳細な事業計画・収支計画を検討した上で、マイクロバスを活用した団体客の誘致や、企業の福利厚生施設としての利用、各種イベントの実施等で費用対効果の高い集客増を図り、収益増加・確保に繋げる。		入浴・グラウンドゴルフ・食事等で利用する方々に対し、マイクロバスでの送迎を継続し、サービスの向上に努めました。 ○マイクロバス活用実績 ・平成29年度: 315件 4,939名 ・平成30年度: 302件 4,908名 ・令和元年度: 191件 3,007名 ○具体的取組事例 ・自衛艦入港支援 ・大型クルーズ船入港支援 ・堀一方温泉友の会 ・GG同好会 ・温泉いきいき健康サロン支援 ・東郷元気デイ・サービス:8地区 オートキャンプ場のコテージ等を利用するお客様へのサービス向上を図るため、物産館と連携してバーベキューセットの販売促進に努めました。また、グラウンドゴルフと入浴、食事をパック商品にしたサービスを通じて、高齢者の健康増進及び利用促進に努めると共に、9月には、「敬老の日」を中心に「へべす湯」による入浴及び料金割引サービス等を行い、利用促進に努めました。		□充分であった ■ある程度あった □不十分であった イベントの実施や前売り券販売、施設間連携によるサービス提供などの経営努力は評価できます。バス送迎の実績が大きく減少しており、新たな集客要素の開拓が必要であると思われる。また、自動車販売会社の販促イベントに活用されるなど、施設の魅力を発信する新たな需要を獲得できたことは良かったと思います。温泉館は厳しい状況でしたが、他の施設については購買者数(利用者数)の減少がある一方で収益状況が改善されていますので、取組みの効果が現れているように思います。	
オリジナル商品・メニュー等の開発	サンパーク温泉オリジナル商品やメニュー、企画の開発研究と販売に努める。		地元の物産品製造・販売業者とタイアップして考案した漬物「平兵衛酢大根」とお菓子「マンゴークリームロール」を、道の駅「日向」限定商品として販売を促進し、道の駅「日向」の周知に努めるとともに、サンパーク施設全体の集客力の向上に努めました。		□充分であった ■ある程度あった □不十分であった 地元の業者と連携した魅力的な商品開発や販売促進活動は、サンパーク施設全体の魅力を高めるために効果のある取組みだと思います。売上アップのための新商品開発、限定品販売で集客努力を図ったことは評価できます。販売促進のための広告宣伝に対する当該商品の売上の分析、アンケートなどで一層の効果を図っていただきたいと思っています。		

法人自らによる経営健全化のための具体的な取組	情報発信	ホームページの更新、サンパーク広報誌のほか、リーフレットのリニューアル、Googleマップインドアビュー登録	ホームページの更新や、サンパーク広報誌「ゆーもあ」の内容の充実を図り、市内全戸に配布したほか、市内のビジネスホテルや民宿をはじめ主要施設にも配布して不特定の方への配布拡大に努めました。あわせて、「フェイスブック」により、引き続き情報提供を行いました。 また、平成30年度にGoogleマップインドアビューに登録して、情報検索をやすくし、日向サンパーク施設の認知度向上に資する取組を行いました。 (市) サンパーク周辺の美々津海岸遊歩道をGoogleマップストリートビューによる閲覧が出来るように、専用機械で撮影(H30)を行い、令和元年度から、活用出来るようになりました。	□充分であった ■ある程度あった □不十分であった フリーソフトを活用したホームページ構築で、費用を抑えた点は理解できますが、写真スペースが多く、情報量に対してページ数が多い感じや、一部対応していないブラウザもあり、内容や見易さなどを含め他のサイトを参考にしてリニューアルも必要ではないかと思えます。今後も、日向サンパーク施設の認知度向上のために、継続的に情報発信に取り組まれてください。
	利用者アンケートの実施	アンケート調査により利用者のニーズや施設、経営に対する改善点を抽出する。	毎月、アンケート及び利用者等から寄せられた意見を集約し、社内回覧で情報共有を行いました。この中で、業務改善を必要とする事案については、社内会議により優先順位を付け改善に取り組みました。	□充分であった ■ある程度あった □不十分であった 今後も利用客のニーズを的確に把握し、社内で共有していただきたいと思えます。引き続き、利用者の意見を業務の改善に生かす取組を継続されてください。
	社員の資質向上	各社員の能力を向上させることにより、営業経費の低コスト化、短時間での対応、高品質なサービスの提供を目指す。	温泉施設の衛生管理向上を図るための「レジオネラ属菌汚染防止対策講習会」への参加や、温泉館施設を中心とした火災避難誘導訓練、及び消火器取扱い方法習得の実地訓練等を実施しました。	□充分であった ■ある程度あった □不十分であった 社員の資質向上という点では、業務改善と同様に意欲的に取り組んでおられるように思えます。過去を教訓とし、今後も適切な施設運営に関する社員教育に力を入れていただきたいと思えます。
	契約の見直し	業務委託や物品購入については、業務内容や契約内容の見直しを随時行い、入札制度を用いる等、経費の削減に努める。	業務委託や物品購入については、業務内容や契約内容の見直しを随時行い、入札制度を用いる等、経費の削減に努めました。	□充分であった ■ある程度あった □不十分であった 経費削減の効果は見えにくいですが、物産館の取引が増大したことによる経費増加の影響もあったかと思えます。今後も、市の財務規則を準拠するなど、競争入札を原則として経費の削減と契約の適正化に努められてください。
	物件費の削減	省エネ対策(節電)・水道使用料(節水)を実践し、経費の軽減を図るほか、全ての経費について節約に努める。	温泉館及び物産館の照明については、長寿命化と節電対策として、LED化に取り組みました。	□充分であった ■ある程度あった □不十分であった 水道光熱費は、前期よりは減少していますので、節電等の取組の効果があつたのではと思えます。費用対効果を検証しながら今後も効果的な経費削減に努められてください。
	人件費の抑制	各部署の職員体制並びに勤務体制等を検討し、効率的な人員配置と経費抑制に努める。	職員体制並びに、勤務体制等については、レストランと売店部門を統括するリーダーを配置して、効率的な人員配置を図りました。欠員の解消ができない部門については、事務所の統括営業課職員が業務に当たるといふ勤務形態をとりました。	□充分であった ■ある程度あった □不十分であった 人件費は前期より増加してはいますが、一方で欠員が解消できない、最低賃金の改定といった事情を考慮すると、やむを得ないものと思えます。働き方改革などとの両立の中で、人件費の抑制に努めたことは評価できます。
市による財政的なリスク対処のための具体的な取組	アンケートの実施	サンパークの改善事項を把握し、信頼される会社経営に向けて取り組む。	アンケート結果をもとに、利用者ニーズを把握し、必要な改善に取り組みました。特に、要望の高かった脱衣室の床の全面張替えを2箇所とも行い、利用者の満足度向上を図りました。	□充分であった ■ある程度あった □不十分であった ニーズを的確に把握し、優先順位を検討しながら対応したことは評価できます。引き続き、利用者ニーズを把握し改善に取り組まれてください。
	効率的な経営環境の整備	利用者ニーズや経営体制等を考慮しながら、効率的・効果的な営業形態がとりやすい環境を整備するため、条例等の改正や各種計画への位置づけを行う。特に、消費税増税に合わせ、施設の適正な料金設定を見直し、管理者が弾力的に運営しやすい使用料の改訂等を行う。	消費税率引き上げに伴う増額に加え、近年の施設の維持管理費の増加に伴い浴場の大人の利用率について、税込み510円から550円へ条例改正し、利用料金収入増を図りました。 オートキャンプ場については、キャンセル料の取り決めがなかったため、周辺のキャンプ場等を参考に、コテージの利用予約を自己都合によりキャンセルする場合に、3日前までにその旨を申し出なかったら、キャンセル料を徴収するという条項を協定書の中に盛り込むと併し、直前でのキャンセルを抑止する効果が図られるものと期待できます。	□充分であった ■ある程度あった □不十分であった 周辺施設に比べ若干高い利用率となったことは、経営改善からやむを得ない判断と考えます。キャンセル料についての取り決めを周辺のキャンプ場等を参考に整備されたことは、非常にいい取組みのように思えます。
	修繕計画	設備機器類の耐用年数と塩害による機器の損傷を考慮した修繕計画を策定するとともに予算の確保に努め、定期的に点検しながら計画に沿った更新に取り組む。	経年劣化している機器の更新及び補修工事を実施しました。 ①高温槽昇温海水用ポンプ等切替配管工事 864千円 ②脱衣室浴場等維持補修工事 1,573千円 ③高温槽昇温用熱交換器プレート取替等維持補修工事 1,870千円 ④その他サンパーク施設に関する工事・修繕・備品購入費 5,334千円 施設の長寿命化を中期計画における最優先事項として位置づけ、限られた予算での対応を行いました。また、バイオマスボイラーの度重なる故障により燃料費が増大していることから、次年度以降、早急に更新に向けて取り組むこととした。	□充分であった ■ある程度あった □不十分であった 限られた予算の中で計画どおり実施できていると思えます。
	適正な契約	指定管理者制度による協定と業務委託契約を精査し、適正な契約内容と経費を確立し、管理責任の明確化を図る。	指定管理者とは、新たに5年間の協定を締結したところですが、指定管理者から提出された事業計画(収支計画)等をもとに適正な指定管理料を算定し、例年より約500万円増額しました。さらに、バイオマスボイラーの故障による長期停止が影響し燃料費が増大したことから、一部経費の補てんも行いました。 【指定管理期間】平成31年4月1日から令和6年3月31日まで	■充分であった □ある程度あった □不十分であった 過去からの経営分析を行い、指定管理料を増額した事は資金繰りの点から、必要な措置であったと思えます。

財務状況	貸借対照表	項目	金額(千円)			損益計算書・正味財産増減計算書	項目	金額(千円)			
			H29	H30	R元			H29	H30	R元	
		資産合計	17,839	11,312	21,041		経常収益	352,968	364,248	384,317	
		負債合計	61,530	68,159	87,598		うち市からの補助金・委託料	26,630	32,535	34,831	
		資本合計	△ 43,692	△ 56,846	△66,557		経常費用	361,293	377,194	393,819	
		累積欠損金	△93,692	△106,846	△116,557		経常利益(損失)	△8,325	△12,946	△9,502	
							当期利益(損失)	△8,534	△13,155	△9,710	
指標関係	成果指標(数値目標)		H29実績	H30実績	R元目標	R元実績	R2目標	R3目標			
	財務指標	流動比率(%)	37.97	23.97	36.10	25.65	90以上	100以上			
		損失補償									
		短期貸付金	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	0			
		経常利益	△8,325	△12,946	△10,000	△9,502	0	13,061			
	活動指標	利用者数(人)	399,811	397,956	415,200	374,389(221,320)	220,000	230,000		※R元実績の括弧内人数は温泉館を除いたもの	
		温泉館客単価(円/人)	617	678	700	702					
		物産館売上額(千円)	196,950	202,173	210,000	224,943	209,300	208,000			
		オートキャンプ場稼働率(%)	コテージ	27.4	24.6	30.7	22.5	31.5	32.3		
			ログハウス	15.1	16.4	17.3	14.0	18.1	18.9		
		テントサイト	6.5	7.5	7.5	9.3	8.0	8.2			
財務・活動・成果指標取組結果	<p>利用者数は、年度末のコロナ禍の影響もあり、H30年度に比べ温泉館が16,384人の減、物産館も10,860人の減となりました。オートキャンプ場の利用者は787人の減、体育施設の利用者は144人の増となりましたが、全体としては目標数を11,678人下回りました。</p> <p>全体の財務状況としては、物産館については、鮮魚の販売強化、細島岩がきの販売、オートキャンプ場利用客へのバーベキューセット販売、ふるさと納税返礼品取扱強化などに努め、増収になりましたが、最低賃金の見直し等による人件費の増加に加え、バイオマスボイラーの運転トラブルに係る、長期の稼働停止に伴う燃料費の負担増により、H30年度に比べて負債額が17.1%増加しました。</p>										
第三セクター経営検討委員会点検評価総括	<p>消費税法改正や事業年度末での新型コロナウイルス感染症による影響等、厳しい経営環境であったかと思えます。そういった環境において、温泉館は非常に厳しい業績となっておりますが、一方で、物産館については売上が前期と比較して大幅に増加し、さらに営業利益率も改善しています。これは、日々経営改善に取り組まれてきた成果だろうと思えます。温泉館については、休館することとなったのは大変残念ではありますが、これまで三セク・市ともに危機感を共有して、収入増加確保策等、経営努力を重ねたことは評価すべきであり、将来負担の増大を考慮するとやむを得ない判断と考えます。また、道の駅については、海の駅など他の駅とのタイアップによる相乗効果等も検討されるというのではないかと考えます。</p> <p>今後は、温泉館の休館により、会社としての収益構造が大きく変化すると思えますが、引き続き、道の駅をはじめとする残された施設の魅力を向上させ、その収益性や財政状態の改善、安定経営に取り組まれてください。</p>										
	第三セクター経営検討委員会による経営検討結果	B	⇒	A 経営努力を行いつつ事業は継続							
			⇒	B 事業継続は可能と判断されるが、早急な経営改善策の取組強化、意識改革が必要							
			⇒	C 事業内容の大幅な見直し等による抜本的な経営改善が必要							
			⇒	D 深刻な経営難の状況にあり、経営の観点からは、事業の存廃も含めた検討が必要							
第三セクター経営検討委員会の点検・評価結果を踏まえた意見	市	今後の方向性	I	⇒	ア 経営努力を行いつつ現状のまま存続						
				⇒	イ 事業内容等の見直しを行った上で存続						
				⇒	ウ 再建を行いつつ存続						
				⇒	エ 廃止、または完全民営化、もしくは事業の民間譲渡						
				⇒	オ その他()						
今後の取組について	<p>日向サンパークについては、本市の重要な観光施設であることから、特に赤字部門である温泉館の経営改善に向けて取り組んできたところですが、これまでの赤字経営に加え、令和2年3月からコロナ禍により長期の施設休業や道の駅を含むサンパーク全体の利用者が激減したことで、売上げが急速に落ち込み、今後も「新しい生活様式」に対応した対策が求められるなどその影響を受けることが予想されます。このようなことから、市としては、厳しい財政状況の中、これまで以上の財政支援や施設改修費用に対する将来の財政負担等を考慮し、赤字部門である温泉館の経営継続は困難であると判断し、9月末をもって休館することとしました。</p> <p>このことにより、(株)日向サンパーク温泉においては、単年度黒字化が見込まれますが、今後しばらくはコロナ禍による収益減が予想されるとともに、これまでの債務に伴う市からの長期借入金の返済も必要なことから、観光誘客及び収益増加を図るために、利用者ニーズにあわせた施設の計画的な修繕・改修、並びに戦略性のある情報発信など利用拡大につながる取組を行っていきます。</p> <p>また、休館中の温泉館については、市民の健康増進と地域の活性化に必要な施設であることから、民間事業者のノウハウを有効活用し、温泉館が再開できるよう民間譲渡に向けて準備を進めているところです。</p>										
日向サンパーク 株式会社	今後の取組について	<p>温泉館の休館に伴い、今後は指定管理業務としてのオートキャンプ場及び体育施設と自主事業としての道の駅日向物産館の管理運営を行うこととなります。</p> <p>これまでの借入金と借り換えにより市からの長期借入れとなり今年度の返済は猶予されましたが、来年度からは年600万円弱の返済をしていくこととなります。これまで物産館の収益に頼るところが大きい現状でありましたが、オートキャンプ場や体育施設においても稼働率のアップ等により収益向上を図る必要があります。</p> <p>物産館においては、ご提案をいただいた他の駅とのタイアップや時期に応じたイベントの開催、特色ある商品の開発・販売に努め、さらなる収益アップを図ります。</p> <p>オートキャンプ場においては、温泉館の休館により利用者減が懸念されますが、サーファーなどの観光客への情報発信や物産館との連携により稼働率の向上を図ります。また、体育施設との連携により中高生のテニス合宿を企画するなどPRに努めます。</p> <p>さらに従業員の接客マナーの向上や待遇改善による意欲の向上ができるよう経営努力を進めてまいります。</p>									
その他特記事項											